4-169-540-**01**(2)

ワイヤレス
オーディオレシーバー

取扱説明書

DRC-BT60 / BT60P

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

 Printed in Thailand

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

⬇

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

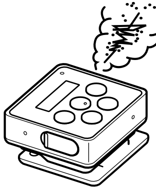
1 年に一度は、ほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



❶ 電源を切る

❷ ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災･感電･漏液･発熱･破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意　火災　感電

行為を禁止する記号



禁止　接触禁止



分解禁止

行為を指示する記号



指示

目次

⚠危険 火災 感電 下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

付属以外の USB ケーブルを使わない

充電するときは、必ず付属のUSBケーブルを使用してください。破裂や電池の液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因となります。

禁止

推奨以外の USB 充電 AC 電源アダプターを使わない

USB充電AC電源アダプ ターを用いて充電するときは、必ず推奨のAC-U501AD（別売）を使用してください。

禁止

火の中に入れない

禁止

分解しない

故障や感電の原因となります。充電式電池の交換、内部の点検および修理はソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない

禁止

⚠警告

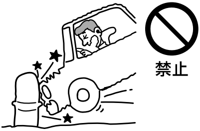


下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**やけどや大けが**の原因となります。

道路交通法に従って安全運転する

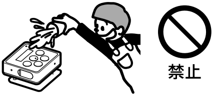
運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

- 運転中は本機および携帯電話を使用しないでください。
- 運転中に携帯電話の画面を注視しないでください。
- 運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所では本機を使わないでください。



内部に水や異物を入れない

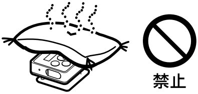
本機は防水仕様ではありません。
水や異物が入ると火災や感電の原因になります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。





本体を布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



次のページにつづく

⚠注意　下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。耳を守るため、音量を上げすぎないようにご注意ください。本機につないでいる*Bluetooth*機器によっては、通話時にハウリング現象がおきることがありますので、常に適度な音量を保つようにしてください。



禁止

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。音量は徐々に上げましょう。

禁止

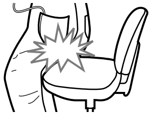
通電中の製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

禁止

本機をズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない

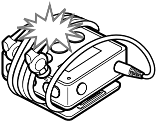
変形や故障の原因となることがあります。



禁止

本機にヘッドホンを巻き付けたまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない

変形や故障の原因となることがあります。



禁止

⚠注意 **下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。**

本機を航空機内で使わない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

禁止

本機を医療機器の近くで使わない

電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。満員電車などの混雑した場所や医療機関の屋内では使わないでください。

禁止

本機を心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離す

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

注意

本機を自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使わない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

禁止

本機は、国内専用です

海外では国によって電波使用制限があるため、本機を使用した場合、罰せられることがあります。

指示

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険　充電式電池が液漏れしたとき

充電式電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはソニーサービス窓口にご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠警告　充電式電池について

- 付属のUSBケーブル以外で充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光の当たるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。

⚠注意　日本国内での充電式電池の廃棄について

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

Bluetooth 機器について

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

周波数について

本機は2.4 GHz帯の2.4000 GHzから2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書（裏表紙）をご覧ください。

2.4FH1

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

Bluetooth とそのロゴマークは、Bluetooth SIG,INC.の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

Bluetooth 無線技術について

ブルートゥース
Bluetooth® 無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ 10 m 程度までの距離で通信を行うことができます。
必要に応じて 2 つの機器をつなげて使うのが一般的な使い方ですが、1 つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。
無線技術によって USB のように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。
Bluetooth 標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

Bluetooth 機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、*Bluetooth* 機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記の *Bluetooth* バージョンとプロファイルに対応しています。

対応 *Bluetooth* バージョン：
Bluetooth 標準規格 Ver. 2.1+EDR*1 準拠
対応 *Bluetooth* プロファイル：

– A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
– AVRCP（Audio Video Remote Control Profile）：再生、一時停止、停止など、AV 機器を操作する。
– HSP（Headset Profile）*2：通話／携帯電話を操作する。
– HFP（Hands-free Profile）*2：ハンズフリーで通話／携帯電話を操作する。

*1 Enhanced Data Rate の略
*2 携帯電話の *Bluetooth* 機能が HFP と HSP の両方に対応している場合は、HFP を使用してください。

ご注意

- *Bluetooth* 機能を使うには、相手側 *Bluetooth* 機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。
  ただし、同じプロファイルに対応していても、*Bluetooth* 機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- *Bluetooth* 無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、ワイヤレスオーディオレシーバー側での再生がわずかに遅れます。

こんなことができます

本機は、*Bluetooth* 無線技術を利用したワイヤレスオーディオレシーバーです。

- *Bluetooth* 対応音楽プレーヤー(携帯電話、デジタルミュージックプレーヤー、*Bluetooth* トランスミッターを接続したデジタルミュージックプレーヤーなど)*[1] の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。
- 携帯電話やポータブルオーディオなどに付属のヘッドホンや、お手持ちのヘッドホンがご使用頂けます。*[2](ヘッドホンは別売です)
- *Bluetooth* 対応携帯電話 *[3] をカバンの中に入れたまま、ハンズフリーで通話ができます。
- *Bluetooth* 対応音楽プレーヤー *[4] の基本的なリモコン操作(再生・停止など)ができます。
- 周囲の電波の影響による音切れが発生しにくく、簡単に接続ができる *Bluetooth* 標準規格 Ver.2.1 + EDR 採用
- FM チューナーを搭載し、単体の FM ラジオとしても利用可能
- 便利な USB 充電式
- 高音質な通話を可能にするエコーキャンセレーションとノイズサプレッションを搭載
- ワンセグ音声もワイヤレスで楽しめる SCMS-T 対応
- クリップで本機を衣類のポケットなどに装着することができます。

Bluetooth 無線技術については 10 ページをご覧ください。

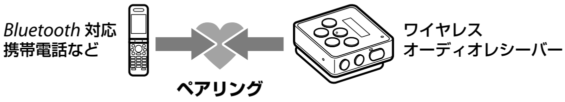


*[1] 接続する *Bluetooth* 機器が A2DP に対応している必要があります。
*[2] 接続するヘッドホン(別売)のプラグは、ステレオミニプラグに限ります。
*[3] 接続する *Bluetooth* 機器が HSP または HFP に対応している必要があります。
*[4] 接続する *Bluetooth* 機器が AVRCP に対応している必要があります。

Bluetooth 機器基本操作の流れ

ペアリングする

音楽送信に対応した *Bluetooth* 機器と本機を、接続相手として登録します。一度ペアリングすれば、次回からペアリングする必要はありません。

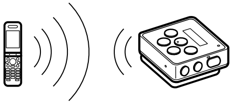


→19 ～ 20 ページ

音楽を聞く

Bluetooth 接続する

Bluetooth 機器を操作して、*Bluetooth* 接続します。



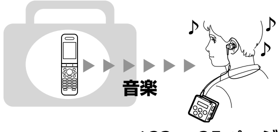
接続

A2DP **AVRCP**

→23 ページ

音楽を聞く

Bluetooth 機器で再生する音楽を本機で聞くことができます。音楽の再生、一時停止または停止などを、本機で操作できます。

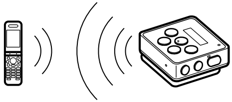


→23 ～ 25 ページ

通話する

Bluetooth 接続する

本機の電源を入れると、自動的にペアリングした携帯電話と *Bluetooth* 接続します。



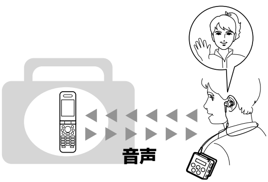
接続

HFP **HSP**

→26 ～ 27 ページ

通話する

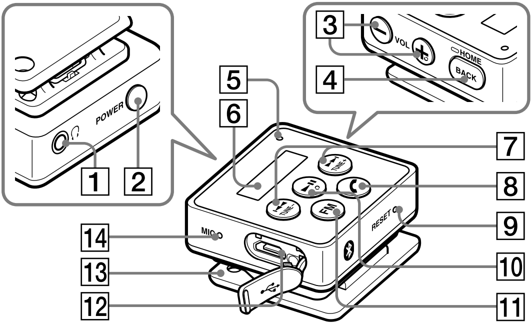
本機を操作して電話をかけたり、受けたりできます。



→27 ～ 30 ページ

各部のなまえと働き

本体



1 ∩（ヘッドホン）端子

2 POWER（電源）ボタン

3 VOL（音量）＋ */ －ボタン

4 BACK/HOME ボタン

5 ランプ（青）（赤）
本機の *Bluetooth* 通信状態（青）・充電状態（赤）を表示します。

6 表示部
14 ページをご覧ください。

7 ⏮/⏭、TUNE ＋ / －ボタン
曲送り／曲戻し、項目の選択、周波数または放送局の選択などを行います。

8 （マルチファンクション）ボタン
本機で通話するとき、さまざまな機能を操作します。

9 RESET ボタン

10 ▶II（再生 / 一時停止 / 決定）ボタン *

11 FM（FM ラジオ）ボタン

12 USB 端子

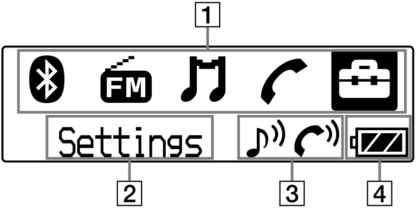
13 クリップ

14 マイク

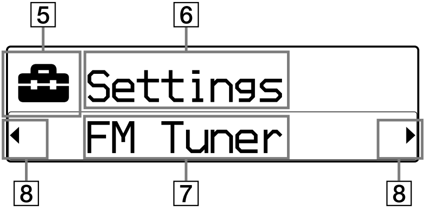
* 凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

表示部

ホームメニュー



ホームメニューの下の階層



1 **機能アイコン**
選択中のアイコンは反転して表示されます。

2 **文字情報**
選択中アイコンの機能名が表示されます。

3 ***Bluetooth* の接続状態**
♪：A2DP で接続しているときに表示されます。
電話アイコン：HSP/HFP で接続しているときに表示されます。

4 **電池残量**

5 **モードアイコン**

6 **現在の階層**

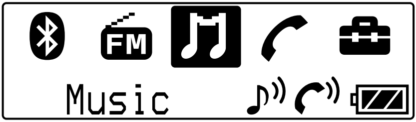
7 **選択中の項目**

8 **項目移動アイコン**
左右に項目がある場合に表示されます。⏮/⏭ ボタンを押すと、左右の項目に移動します。

ホームメニューについて

本機の BACK/HOME ボタンを約 2 秒間押し続けると、ホームメニューが表示されます。ホームメニューは、本機の各機能の入り口になり、ペアリングや曲の再生、設定変更などができます。

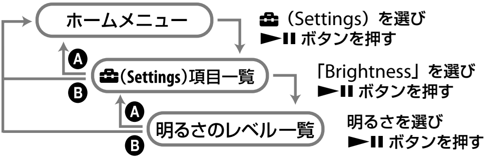
ホームメニュー



Bluetooth	*Bluetooth* 機能メニューを表示します。
FM	FM ラジオ放送を受信します。
Music	*Bluetooth* 機器の音楽を本機で再生します。
Phone Call	通話機能メニューを表示します。
Settings	設定メニューを表示します。

ホームメニューの操作について

ホームメニューにメニュー項目が表示されているときは、I◀◀/▶▶I ボタンで項目を選び、▶II ボタンで決定します。
ホームメニューのメニュー項目が表示されているときに、再度 BACK /HOME ボタンを押すと、1 階層上のメニューに戻り、約 2 秒間押し続けるとホームメニューに戻ります。例えば、ホームメニューから （Settings）を選び、明るさを変えるときは以下のように画面が切り換わります。



A BACK/HOME ボタンを押す。
B BACK/HOME ボタンを約 2 秒間押し続ける。

ホームメニュー一覧

(Bluetooth) *1

- Pairing
- Device List
  - 接続機器一覧
    - Phone Connect
    - Phone Disconnect
    - Music Connect
    - Music Disconnect
    - Delete
    - Unit Info
      - Device Address
      - Profile

*1 ペアリングした *Bluetooth* 機器の登録が無い場合は、アイコンの機能名は「Pairing」となり、「Device List」は表示されません。

(FM)

(Music)

(Phone Call)

- Received Call
- Redial
- Voice Dial

(Settings) *2

- Bluetooth
  - Sound Quality
    - High Quality
    - Standard
  - Video Mode
    - On
    - Off
  - Remote Command
    - Mode 1
    - Mode 2
  - Unit Info
    - Device Name
    - Device Address
    - Profile
- FM Tuner
  - Dx/Local/Mono
    - Dx
    - Local
    - Mono
  - Scan Sens
    - High
    - Low
- Brightness
  - Level 1
  - Level 2
  - Level 3
  - Level 4
  - Level 5
- Initialize

*2 お買い上げ時の設定は下線の項目です。

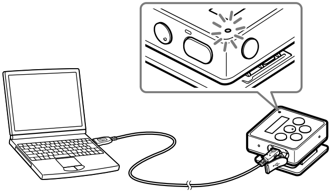
本機を充電する

本機はリチウムイオン充電式電池を内蔵しています。充電してからお使いください。

1 本機の ⇓ USB 端子のふたを開ける。

2 本機を付属の USB ケーブルでパソコンとつなぐ。

本機に接続する USB ケーブルのコネクタは、⇓ を上にして差し込みます。



本機とパソコンをつなぐと充電が始まります。
本機のランプ（赤）が、点灯していることを確認してください。
充電は、約 3 時間 * で完了し、ランプ（赤）は自動的に消灯します。

* 電池残量がない状態から、満充電するのにかかる時間

ご注意

- 本機を長期間お使いにならなかった後に充電を行なった場合、USB ケーブルをパソコンにつないでも本機のランプ（赤）がすぐに点灯しない場合があります。本機から USB ケーブルをはずさず、ランプ（赤）が点灯するまでしばらくお待ちください。
- 充電後に本機の ⇓ USB 端子のふたを閉めるときには、ふたが押し当たるまで確実に押し込んでください。
- USB 充電に対応しているパソコンの推奨環境については、「USB 充電のパソコン推奨環境」（50 ページ）をご覧ください。

ヒント

- 本機の電源が入っているときに USB ケーブルをパソコンにつなぐと、本機の電源は自動的に切れます。
- 電源コンセントと本機をつないで充電するときは、USB 充電 AC 電源アダプター AC-U501AD（別売）をお使いください。詳しくは、USB 充電 AC 電源アダプターに付属の取扱説明書をお読みください。
- 充電中は本機の電源を入れることができません。

警告

本機は以下の原因などにより、充電中に異常を検知すると、充電が完了していなくてもランプ（赤）が消灯することがあります。

– 動作保証温度範囲（0 ℃～ 40 ℃）を超える場合

– 充電式電池に問題がある場合

この場合、もう一度上記の温度範囲で充電を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

ご注意

- 長い間使わなかったときは、充電式電池の持続時間が短くなることがあります。何回か充放電を繰り返すと、充分に充電できるようになります。
- 使用可能時間が通常の半分ぐらいに低下した場合は、充電式電池の寿命と考えられます。充電式電池の交換については、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。
- 急激な温度変化や、直射日光、霧、砂、ほこりや電気的な衝撃を避けてください。また駐車中の車内には、絶対に放置しないでください。
- 本機とパソコンを接続中にパソコンが省電力モードになると、正しく充電されません。接続をする前にパソコンの設定を確認してください。パソコンが省電力モードになってもランプ（赤）は自動的に消灯します。この場合は、充電をやり直してください。
- 本機とパソコンは、付属の USB ケーブルのみを使い、必ず直接つないでください。USB ハブなどを経由して接続すると、正しく充電されません。

使用可能時間 *

本機の状態	使用可能時間
連続通信（音楽再生時間を含む）	最大 9 時間
連続待ち受け	最大 140 時間
FM ラジオ放送受信	最大 9 時間

* 周囲の温度や使用状態により、上記の使用可能時間と異なる場合があります。

充電式電池の残量を確認する

本機の電源が入っているときに、表示部に充電式電池の残量が表示されます。

電池残量表示	電池残量
	満
	中
	減　（要充電）

ご注意

操作中の表示画面によっては、充電式電池の残量を確認できない場合もあります。

充電式電池の残量が完全になくなると

ビープ音が鳴り、本機の電源が自動的に切れます。

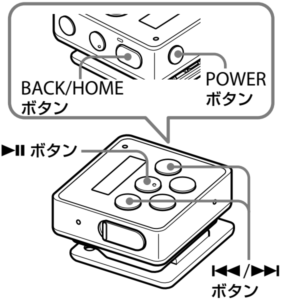
ペアリングする

ペアリングとは

Bluetooth 機器では、あらかじめ、接続しようとする機器を登録しておく必要があります。この登録のことをペアリングといいます。
一度ペアリングすれば、再びペアリングする必要はありませんが、以下の場合は再度ペアリングが必要です。

- 修理を行ったなど、ペアリング情報が消去されてしまったとき。
- 9 台以上の機器をペアリングしようとしたとき。
  本機は 8 台までの機器をペアリングすることができます。8 台分をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、8 台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- 接続相手の機器から、本機との接続履歴が削除されたとき。
- (Settings)の「Initialize(初期化)」で本機を初期化したとき(37 ページ)。
  すべてのペアリング情報が消去されます。

ペアリングの手順



1 本機の電源が切れている状態で、POWER ボタンを約 2 秒間押し続ける。

表示部に「Power On」と表示され、ランプ(青)が 2 回点滅し、電源が入ります。

2 相手側 *Bluetooth* 機器を、本機の 1 m 以内に置く。

3 I◄◄/►►I ボタンで (Bluetooth)を選び、►II ボタンを押して決定する。

初めてペアリングをする場合は、アイコンの機能名は「Pairing」と表示されます。(Pairing)を選び、►II ボタンを押して決定後、手順 5 に進んでください。

4 「Pairing」選択中に ►II ボタンを押して決定する。

次のページにつづく

5 ⏮/⏭ ボタンで「OK」を選び、▶II ボタンを押して決定する。

「Pairing」と表示され、ランプ（青）とランプ（赤）が交互に点滅し、ペアリングモードに入ります。

ヒント

ペアリングモード時に BACK/HOME ボタンを押すとペアリングモードが解除されます。

ご注意

5 分以内にペアリングを完了しなかった場合、本機のペアリングモードは解除されます。この場合、もう一度手順 3 から操作してください。

6 相手側 *Bluetooth* 機器でペアリング操作を行い、本機を検索する。

相手側 *Bluetooth* 機器の画面に、検出した機器の一覧が表示されます。本機は「DRC-BT60」と表示されます。

「DRC-BT60」が表示されない場合は、もう一度、相手側 *Bluetooth* 機器から検索しなおしてください。

ご注意

- 相手側 *Bluetooth* 機器の操作については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 検出した機器の一覧が表示できない *Bluetooth* 機器や、画面がない機器とペアリングするときは、本機と相手側 *Bluetooth* 機器の両方をペアリングモードにしてください。相手側 *Bluetooth* 機器によってはこの操作でペアリングできる場合があります。このとき、相手側 *Bluetooth* 機器のパスキーが「0000」以外に設定されていると、本機とペアリングすることができません。

7 相手側 *Bluetooth* 機器の画面に表示されている「DRC-BT60」を選択する。

8 相手側 *Bluetooth* 機器の画面でパスキー * の入力を要求されたら、「0000」を入力する。

表示部に相手側 *Bluetooth* 機器名が表示され、ランプ（青）がゆっくりした点滅に変わります。

ホームメニューに戻ると、ペアリングの完了です。このとき、相手側 *Bluetooth* 機器の画面によっては「登録完了」などと表示されます。

ペアリングが失敗すると表示部に「Pairing Failed」と表示され、ホームメニューに戻ります。

* パスキーは、パスコード、PIN コード、PIN ナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。

ご注意

相手側 *Bluetooth* 機器によっては、パスキーの入力を要求されない場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

9 相手側 *Bluetooth* 機器で *Bluetooth* 接続操作を行う。

本機は相手側 *Bluetooth* 機器を最後に接続した機器として記憶します。

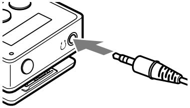
また、相手側 *Bluetooth* 機器によっては、ペアリングが完了すると自動的に本機と *Bluetooth* 接続した状態になる場合があります。

ヒント

- 複数の *Bluetooth* 機器とペアリングするには、ペアリングしたい機器ごとに手順 3 ～ 8 を繰り返してください。
- 本機とペアリングした *Bluetooth* 機器の情報を削除するには、「ペアリングした *Bluetooth* 機器を管理する」をご覧ください（38 ページ）。

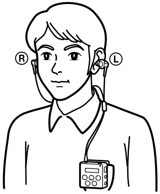
本機を装着する

1 **本機にヘッドホン（別売）を取り付ける。**



2 **クリップで本機を衣類のポケットなどに取り付け、ヘッドホンを装着する。**

ヘッドホンは Ⓛ 表示のあるほうを左耳に、Ⓡ 表示のあるほうを右耳にして、装着してください。



ヒント

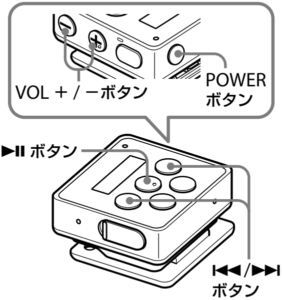
クリップは回転することができます。

Bluetooth 機能のランプ表示

B：ランプ（青）
R：ランプ（赤）

状態		点滅パターン
ペアリング	機器検索中	B ●—●—●—●—●—●—●—●—… R —●—●—●—●—●—●—●—●…
接続動作	接続待ち	B ●——●——●——●——●——●… R —
	接続動作中	B ●●—●●—●●—●●—●●—… R —
接続済み	HFP/HSP または A2DP の接続（非通話時または非音楽再生時）	B ●—————————●—————… R —
	HFP/HSP と A2DP の同時接続（非通話時または非音楽再生時）	B ●—●———————●—●———… R —
音楽	再生時	B ●●————————●●————… R —
	再生時（HFP/HSP で待ち受け中）	B ●●●———————●●●———… R —
通話	着信中	B ●●●●●●… R —
	通話中	B ●●————————●●————… R —
	音楽再生中の通話	B ●●●———————●●●———… R —

音楽を聞く



本機は SCMS-T 方式のコンテンツ保護に対応しています。SCMS-T 方式対応の携帯電話やワンセグ TV などの音楽（または音声）を、本機で聞くことができます。
機器の操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

– 送信側 *Bluetooth* 機器の電源が入っている。
– 本機と送信側 *Bluetooth* 機器のペアリングが完了している。
– 送信側 *Bluetooth* 機器が音楽送信機能に対応している（プロファイル：A2DP*）。

* プロファイルについて詳しくは、10 ページをご覧ください。

1 本機の電源が切れている状態で、POWER ボタンを約 2 秒間押し続ける。

表示部に「Power On」と表示され、ランプ（青）が 2 回点滅し、電源が入ります。

ご注意

電源を入れたあと、本機は前回接続した *Bluetooth* 機器に HFP または HSP で自動的に接続しようとします。本機で通話をしない場合は、前回接続した *Bluetooth* 機器を HFP または HSP の接続待ち状態にしないでください。音楽再生中に通話もする場合は、30 ページをご覧ください。

2 送信側 *Bluetooth* 機器で *Bluetooth* 接続操作を行う（A2DP）。

表示部に ♪ が表示されます。
送信側 *Bluetooth* 機器の操作については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
音楽再生画面が表示されます。

3 送信側 *Bluetooth* 機器の再生を始める。

次のページにつづく

ヒント

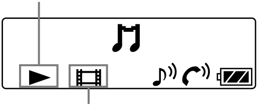
- 本機のホームメニューから ⏮/⏭ ボタンで ♫（Music）を選び、▶II ボタンを押して本機から A2DP の *Bluetooth* 接続をすることもできます。ただし、本機で通話しているときは、A2DP の *Bluetooth* 接続はできません。
- 「Device List（機器一覧）」から接続したい送信側 *Bluetooth* 機器を選んで、本機から A2DP の *Bluetooth* 接続をすることもできます（38 ページ）。

ご注意

- 本機と送信側 *Bluetooth* 機器を、HSP で *Bluetooth* 接続して音楽を再生した場合、本機で高音質の音楽を聞くことができません。送信側 *Bluetooth* 機器を操作して、A2DP の *Bluetooth* 接続に切り換えてください。
- A2DP の *Bluetooth* 接続中に本機の電源を切ったあと、再度 A2DP の *Bluetooth* 接続を行う場合は、もう一度手順 1 から操作を行ってください。

音楽再生画面

再生状態表示 *
送信側 *Bluetooth* 機器の再生状態を表示します。



Video Mode（ビデオモード）アイコン
（Settings）の「Video Mode」を「On」にしているときに表示されます（35 ページ）。

* 送信側 *Bluetooth* 機器が再生状態通知機能（対応プロファイル：AVRCP Ver.1.3 以上）に対応していない場合は表示されません。

音量を調節するには

音楽を再生しているときに、VOL + / − ボタンを押して音量を調節します。

ヒント

- 送信側 *Bluetooth* 機器によっては、接続した機器側でも音量の調節が必要な場合があります。
- 本機は、音楽を聞くとき、FM ラジオを聞くとき、通話するときの音量を、それぞれ調節することができます。通話中や FM ラジオを聞いているときに音量を変えても、音楽再生時の音量は変わりません。

ご注意

本機の音量操作で送信側 *Bluetooth* 機器の音量を調節することはできません。

使い終わるには

1 送信側 *Bluetooth* 機器を操作して、*Bluetooth* 接続を切断する。

2 本機の POWER ボタンを約 2 秒間押し続ける。

表示部に「Power Off」と表示され、ランプ（青）が点灯し、本機の電源が切れます。

ヒント

送信側 *Bluetooth* 機器の種類によっては、音楽の再生を終了すると、自動的に *Bluetooth* 接続を切断する場合があります。

送信側 *Bluetooth* 機器を操作する – AVRCP

送信側 *Bluetooth* 機器が機器操作機能（対応プロファイル：AVRCP）に対応している場合は、本機のボタンで、送信側 *Bluetooth* 機器の操作ができることがあります。

ご注意

送信側 *Bluetooth* 機器の対応機能については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご確認ください。

状態：停止中または一時停止中

	短押し	長押し
►II	①	②
I◄◄/►►I	③	④

① 再生を開始 *1
② 停止
③ 曲戻し／曲送り
④ 早戻し／早送り *2

状態：再生中

	短押し	長押し
►II	⑤	⑥
I◄◄/►►I	⑦	⑧

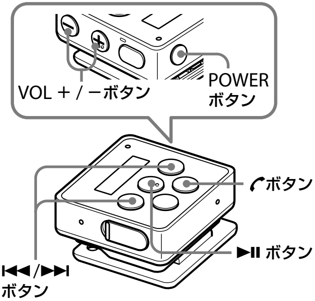
⑤ 一時停止 *1
⑥ 停止
⑦ 曲戻し／曲送り
⑧ 早戻し／早送り *2

*1 送信側 *Bluetooth* 機器によっては、►II ボタンを 2 回押す必要があります。
*2 送信側 *Bluetooth* 機器によっては、操作に対応していない場合があります。

ヒント

送信側 *Bluetooth* 機器によっては、(Settings) の「Remote Command（リモコン・コマンド モード）」を「Mode 2」にすると、早戻し／早送りが可能になる場合があります（36 ページ）。

通話する



機器の操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

– 携帯電話の *Bluetooth* 機能が有効になっている。
– 本機と *Bluetooth* 対応携帯電話のペアリングが完了している。

1 本機の電源が切れている状態で、POWER ボタンを約 2 秒間押し続ける。

表示部に「Power On」と表示され、ランプ（青）が 2 回点滅し、電源が入ります。電源が入ると、前回接続した *Bluetooth* 対応携帯電話へ自動的に接続します。

ヒント

自動接続を試みて 1 分間を過ぎると、接続動作が止まります。その場合は、ボタンを押すと、再度接続を試みます。

本機が *Bluetooth* 対応携帯電話へ自動的に接続しないときは

Bluetooth 対応携帯電話を操作して接続する方法と、本機を操作して前回接続した *Bluetooth* 機器と接続する方法とがあります。

A *Bluetooth* 対応携帯電話を操作して接続する場合

1 *Bluetooth* 対応携帯電話で *Bluetooth* 接続操作を行う（HFP または HSP*）。

Bluetooth 対応携帯電話の操作については、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。
検出した機器の一覧が、*Bluetooth* 対応携帯電話の画面に表示されます。本機は「DRC-BT60」と表示されます。
HFP と HSP の両方に対応した *Bluetooth* 対応携帯電話をご使用になるときは、HFP をご使用ください。

ご注意

前回と異なる *Bluetooth* 対応携帯電話へ接続するときは、上記の方法で *Bluetooth* 対応携帯電話を操作して接続してください。

* プロファイルについて詳しくは、10 ページをご覧ください。

B 本機を操作して前回接続した ***Bluetooth*** 機器と接続する場合

1 ボタンを押す。

表示部に相手側 *Bluetooth* 機器名が表示され、ランプ（青）が点滅し、5 秒間接続動作を行います。

ご注意

- 本機で音楽を聞いているときは、ボタンで *Bluetooth* 接続操作を行うことはできません（「Not Available」と表示されます）。
- 前回と異なる *Bluetooth* 対応携帯電話へ接続するときは、「Device List（機器一覧）」で接続したい機器を選んでください（38 ページ）。

電話をかけるには

お使いの携帯電話から電話をかける方法と、本機を操作して電話をかける方法があります。本機を操作して電話をかける場合は、HFP で *Bluetooth* 接続してください。

A 携帯電話から電話をかける場合

1 携帯電話のボタンを操作して電話をかける。

本機から発信音が聞こえない場合は、⏮ ボタンを押すか（HFP で接続しているときのみ）、ボタンを約 2 秒間押し続けます。

B 本機を操作して電話をかける場合

1 ホームメニューから ⏮/⏭ ボタンで （Phone Call）を選び、►II を押して決定します。

2 ⏮/⏭ ボタンで発信方法を選び、►II ボタンを押して決定します。

Received Call（着信履歴）	着信履歴から発信します。⏮/⏭ ボタンで番号を選び、►II ボタンを押して発信します。最新の着信履歴が最大 5 件まで登録されます。
Redial（リダイアル）	直前にかけた電話番号へ再度発信します。
Voice Dial（ボイスダイアル）	携帯電話のボイスダイヤル機能を起動します。

ヒント

ボタンを押すだけで電話をかけることもできます。詳しくは「*Bluetooth* 対応携帯電話を操作する -HFP、HSP」（29 ページ）をご覧ください。

ご注意

携帯電話の機種によっては、この機能で電話をかけられない場合もあります。詳しくは、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

電話を受けるには

着信があると、本機から着信音が聞こえます。また、HFP で接続しているときは、表示部に発信者番号が表示されます。
本機から聞こえる着信音は、携帯電話によって以下のように異なります。

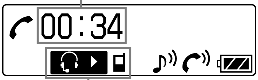
– 本機の着信音
– 携帯電話の着信音
– 携帯電話の *Bluetooth* 接続専用の着信音

ヒント
非通知着信などで発信番号が通知されない場合、および HSP で接続時は、「Incoming call」と表示されます。

1 本機の ボタンを押して、電話を受ける。

通話画面が表示されます。

通話時間 *1*2



通話機器表示 *1
携帯電話と本機のどちらで通話中であるかを表示します。
：携帯電話で通話中
：本機で通話中

*1 通話時間および通話機器表示は、HSP で *Bluetooth* 接続している場合は表示されません。
*2 通話時間は目安です。

ご注意
携帯電話のボタンを操作して電話を受けた場合、機種によっては、携帯電話での通話が優先されることがあります。この場合、本機の ⏮ ボタンを押すか（HFP で接続しているときのみ）、ボタンを約 2 秒間押し続けるか、携帯電話を操作して、音声通信を本機に切り換えてください。携帯電話側での操作について詳しくは、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

音量を調節するには

通話中に VOL ＋ / －ボタンを押して音量を調節します。

ヒント
- 通話待ち受け中に音量を調節することはできません。
- 本機は、通話するとき、FM ラジオを聞くとき、音楽を聞くときの音量を、それぞれ調節することができます。音楽再生中や FM ラジオを聞いているときに音量を変えても、通話時の音量は変わりません。

電話を切るには

本機の ボタンを押して、通話を終了します。

使い終わるには

1 *Bluetooth* 対応携帯電話を操作して、*Bluetooth* 接続を切断する。

2 本機の POWER ボタンを約 2 秒間押し続ける。

表示部に「Power Off」と表示され、ランプ（青）が点灯し、電源が切れます。

Bluetooth 対応携帯電話を操作する – HFP、HSP

携帯電話との接続には、HFP または HSP のどちらかが使用されます。どちらのプロファイルが使われるかは、携帯電話によって異なり、対応する機能も異なります。詳しくは、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

HFP

状態	**ボタン**	
	短押し	長押し
待ち受け	ボイスダイヤル開始 *[1]	リダイヤル
ボイスダイヤル中	ボイスダイヤル解除 *[1]	—
発信中	発信中断	通話機器を本機または携帯電話へ切り換え
着信中	応答	拒否
通話中	通話終了	通話機器を本機または携帯電話へ切り換え

状態	**⏮ ボタン**	**⏭ ボタン**
発信中	通話機器を本機へ切り換え	通話機器を携帯電話へ切り換え
通話中		

HSP

状態	**ボタン**	
	短押し	長押し
待ち受け	—	発信 *[1]
発信中	発信中断 *[1]	発信中断または通話機器を本機へ切り換え *[2]
着信中	応答	—
通話中	通話終了 *[3]	通話機器を本機へ切り換え

*[1] 携帯電話の機種によっては、操作に対応していない場合があります。お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

*[2] 携帯電話の機種によって異なります。

*[3] 携帯電話本体で通話しているときは、操作に対応しない場合があります。

音楽再生中に通話をする

音楽再生中に通話をするには、A2DPだけではなくHFPまたはHSPでの*Bluetooth*接続も必要です。例えば、*Bluetooth*対応音楽プレーヤーで音楽を再生中に*Bluetooth*対応携帯電話で通話をしたいときは、本機とお使いの携帯電話がHFPまたはHSPで*Bluetooth*接続されている必要があります。

次の手順で本機とお使いの機器を*Bluetooth*接続しておきます。

1 **「通話する」（26ページ）の手順に従って、本機とお使いの携帯電話をHFPまたはHSPで*Bluetooth*接続する。**

2 **音楽を再生する*Bluetooth*機器（音楽プレーヤーや携帯電話など）を操作して、A2DPで本機と*Bluetooth*接続する。**

音楽再生中に電話をかけるには

1 **「電話をかけるには」（27ページ）の手順に従って電話をかける。**

発信すると音楽が一時停止し、本機から呼び出し音が聞こえます。
通話が終了したら、ボタンを押します。
本機が音楽再生に戻ります。

音楽再生中に電話を受けるには

着信があると音楽が一時停止し、本機から着信音が聞こえます。

1 **ボタンを押して、通話を開始する。**

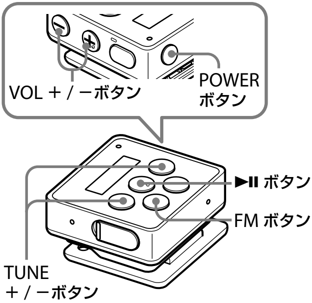
通話が終了したら、ボタンを押します。
本機が音楽再生に戻ります。

着信があっても本機から着信音が聞こえないときは

1 **再生中の音楽を停止する。**

2 **着信音が鳴ったら、ボタンを押して、通話を開始する。**

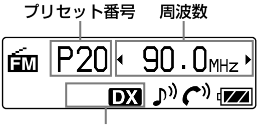
FM ラジオ放送を聞く



本機で FM ラジオ放送を聞くことができます。
ヘッドホンのコードがアンテナとして働きます。コードをできるだけ長く伸ばしてお使いください。

1 本機の電源が切れている状態で POWER ボタンを約 2 秒間押し続ける。
「Power On」が表示され、ランプ（青）が 2 回点滅し、電源が入ります。

2 FM ボタンを押す。
FM ラジオ画面が表示されます。



ヒント
手順 2 で TUNE ＋ / －ボタンで （FM）を選び、►II ボタンを押しても、FM ラジオ放送を聞くことができます。

ご注意
ラジオやテレビの音に雑音が入るときは、本機の電源を切って、本機をラジオやテレビから離してください。

音量を調節するには

FM ラジオを聞いているときに VOL ＋ / －ボタンを押して、音量を調節します。

使い終わるには

1 FMボタンを約2秒間押し続ける。
FM ラジオが停止し、ホームメニューまたは音楽再生画面に戻ります。

2 本機の POWER ボタンを約 2 秒間押し続ける。
表示部に「Power Off」と表示され、ランプ（青）が点灯し、本機の電源が切れます。

選局する

聞きたい放送局を選ぶ方法には、プリセット選局とマニュアル選局の 2 つのモードがあります。FM ボタンを短く押すと、2 つのモードが切り替わります。

プリセット選局モード
プリセット選局モードでは、登録されているプリセット番号で放送局を選ぶことができます。

マニュアル選局モード
マニュアル選局モードでは、周波数で放送局を選ぶことができます。

プリセット選局

プリセット番号の左右に◀と▶が表示されます。

こんなときは	操作
登録されている前のプリセット番号を選ぶ	TUNE －ボタンを短押し
登録されている次のプリセット番号を選ぶ	TUNE ＋ボタンを短押し

ご注意

- 放送局を登録していない場合は、プリセット選局することができません。「放送局を登録する」を実行して、受信できる放送局をプリセット登録してください（33 ページ）。
- 音楽再生中に FM ラジオを聞くと、接続機器の音楽再生が自動で止まります。止まらない場合は、接続機器を操作して停止させて下さい。

マニュアル選局

周波数の左右に◀と▶が表示されます。

こんなときは	操作
前の周波数を選ぶ	TUNE －ボタンを短押し
次の周波数を選ぶ	TUNE ＋ボタンを短押し
受信できる放送局（前）を選ぶ *	TUNE －ボタンを長押し
受信できる放送局（次）を選ぶ *	TUNE ＋ボタンを長押し

* TUNE ＋ / －ボタンを長押しの状態にしておくと、前の（次の）放送局を探します。受信できる放送局を見つけると受信します。
多くの不要な放送局を受信してしまう場合は、「Scan Sens（受信感度）」の設定（36 ページ）を「Low」に設定してください。

放送局を登録する

マニュアル選局モードで選んだ放送局をプリセット登録することができます。

1 マニュアル選局で、登録したい周波数を選ぶ（32 ページ）。

2 ►II ボタンを約 2 秒間押し続ける。

手順 1 で選んだ周波数がプリセット登録され、プリセット番号が表示されます。

ヒント

- プリセットには、最大 30 局（P01 ～ P30）まで登録できます。
- 30 局登録されているときにプリセット登録を行うと、「Preset Full」が表示され、登録ができません。
- プリセット番号は、低い周波数から順番に並び換えられます。
- 誤って ►II ボタンを短押しした場合は、FM ラジオ画面から他の画面に切り換わります（音楽再生画面など）。再度、FM ラジオ画面に戻すには、FM ボタンを押してください。

登録した放送局を削除するには

1 削除したい周波数のプリセット番号を選ぶ

2 ►II ボタンを約 2 秒間押し続ける。

3 TUNE ＋ / －ボタンで「OK」を選び、►II ボタンを押して決定する。

登録していたプリセットが削除され、FM ラジオ画面に戻ります。

ヒント

- 手順 3 で「Cancel」を選び、►II ボタンを押すと登録したプリセットの削除が中止されます。
- 誤って ►II ボタンを短押しした場合は、FM ラジオ画面から他の画面に切り換わります（音楽再生画面など）。再度、FM ラジオ画面に戻すには、FM ボタンを押してください。

受信状態を良くする

ヘッドホンのコードがアンテナとして働きます。コードは出来るだけ長く伸ばしてお使いください。



FM 放送受信中に通話をする

FM 放送受信中に通話をするには、HFP または HSP での *Bluetooth* 接続も必要です。例えば、FM 放送受信中に *Bluetooth* 対応携帯電話で通話をしたいときは、本機とお使いの携帯電話が HFP または HSP で *Bluetooth* 接続されている必要があります。

次の手順で本機とお使いの機器を *Bluetooth* 接続しておきます。

1 「通話する」（26 ページ）の手順に従って、本機とお使いの携帯電話を HFP または HSP で *Bluetooth* 接続する。

FM 放送受信中に電話をかけるには

1 「電話をかけるには」（27 ページ）の手順に従って電話をかける。

発信すると FM 放送受信が一時停止し、本機から呼び出し音が聞こえます。
通話が終了したら、ボタンを押します。
本機が FM 放送受信に戻ります。

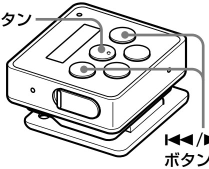
FM 放送受信中に電話を受けるには

着信があると FM 放送受信が一時停止し、本機から着信音が聞こえます。

1 ボタンを押して、通話を開始する。

通話が終了したら、ボタンを押します。
本機が FM 放送受信に戻ります。

設定する



ホームメニューの (Settings) から、本機の設定や設定の初期化をすることができます。設定項目の一覧は「ホームメニューについて」(15 ページ) をご覧ください。

1 ホームメニューから I◀◀/▶▶I ボタンで (Settings)を選び、▶II ボタンを押して決定する。

2 I◀◀/▶▶I ボタンで「Bluetooth」、「FM Tuner」、「Brightness」、「Initialize」の中から設定したい項目を選び、▶II ボタンを押して決定する。

各設定について詳しくは、以下をご覧ください。

Bluetooth（*Bluetooth* の設定）

Bluetooth に関する設定をすることができます。I◀◀/▶▶I ボタン（選択）、▶II ボタン（決定）を繰り返し押して、項目を選びます。お買い上げ時の設定は下線の項目です。

Sound Quality（音質モード）

音楽再生中に音が途切れやすいときに設定します。

<u>High Quality</u> （高音質）	ビットレート * が高く、音質が良い設定です。
Standard （標準）	ビットレートを低くして音を途切れにくくします。

* ビットレートとは、1 秒あたりのデータ伝送量を表す数値です。一般的にビットレートが高いほど、音質が良くなります。本機は、高いビットレートで音楽を受信できますが、ご使用環境によっては、音が途切れやすい場合があります。

ご注意

A2DP で接続中にはこの設定はできません。A2DP 接続を一度切断してから設定を行ってください。

Video Mode（ビデオモード）

A2DP に対応している *Bluetooth* 機器と接続して、ワンセグ放送などを視聴するとき、本機から出力される音声が、映像よりも遅れて聞こえることがあります。この設定では、映像と音声のずれを調整することができます。

<u>Off</u> （切）	通常はこの設定を選びます。
On （入）	音声の遅れを抑えることができます。

次のページにつづく

ヒント
「Video Mode」を「On」に設定すると、音楽再生画面に ▭（Video Mode アイコン）が表示されます。

ご注意
「Video Mode」を「On」に設定すると、音声の遅れを抑えることができますが、ご使用環境によっては、音が途切れやすくなる場合があります。

Remote Command（リモコン・コマンド モード）

AVRCP に対応している *Bluetooth* 機器を操作するときに設定します。音楽再生中に本機で ⏮/⏭ ボタンを長く押した場合に *Bluetooth* 機器へ送信するコマンドの種類を切り換えることができます。この設定の切り換えにより、早戻し／早送りが可能になる場合があります。

Mode1（モード 1）	コマンドモード 1
Mode2（モード 2）	コマンドモード 2

Unit Info（機器情報）

本機の *Bluetooth* 情報を確認することができます。

Device Name（型名）	本機の型名が表示されます。
Device Address（BD アドレス）	BD アドレス（*Bluetooth* 機器固有の番号）が表示されます。
Profile（プロファイル）	サポートしているプロファイル（HFP、HSP、A2DP、AVRCP）が表示されます。

FM Tuner（FM ラジオの設定）

FM ラジオに関する設定をすることができます。⏮/⏭ ボタン（選択）、⏯ ボタン（決定）を繰り返し押して、項目を選びます。お買い上げ時の設定は下線の項目です。

Dx/Local/Mono（受信設定）

FM 放送の受信状態が悪いときに設定します。

Dx	通常はこの設定を選びます。
Local	放送局からの電波が強すぎて受信状態が安定しないときは、この設定を選びます。
Mono	電波が弱く、受信状態が安定しないときは、この設定を選びます（モノラル音声になりますが、ノイズが低減され、聞き取りやすくなります）。

Scan Sens（受信感度）

マニュアル選局（32 ページ）の受信感度を設定します。

High（高）	通常はこの設定を選びます。
Low（低）	受信感度が強すぎて、多くの不要な放送局を受信してしまうときは、この設定を選びます。

Brightness（画面の明るさの設定）

表示画面の明るさを Level 1（暗い）～ Level 5（明るい）の 5 段階で設定をすることができます。⏮/⏭ ボタンで明るさを選び、⏯ ボタンを押して決定します。お買い上げ時は Level 3 に設定されています。

ご注意

表示画面の明るさを明るい設定で使用した場合、使用可能時間が短くなる場合があります。

Initialize（初期化）

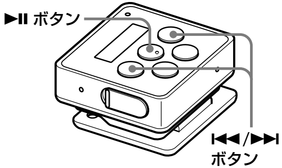
ペアリング情報やラジオのプリセット登録などの本機の設定項目を工場出荷時の状態に戻し、すべての情報を削除します。⏮/⏭ ボタンで「OK」を選び、⏯ ボタンを押して決定します。

ご注意

以下の状態では、この設定はできません。

- *Bluetooth* が接続中
- FM ラジオが起動している

ペアリングした *Bluetooth* 機器を管理する

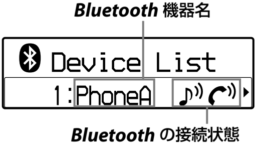


ペアリングが完了した機器は「Device List（機器一覧）」に登録され、本機を使って *Bluetooth* の接続／切断、リストからの削除、*Bluetooth* 機器の情報確認ができます。

1 **ホームメニューから ◄◄/►►I ボタンで ⓑ（Bluetooth）を選び、►II ボタンを押して決定する。**

2 **◄◄/►►I ボタンで「Device List」を選び、►II ボタンを押して決定する。**

ペアリングした *Bluetooth* 機器の一覧が表示されます。



♪⁾⁾：A2DP で接続しているときに表示されます。
☎⁾⁾：HSP/HFP で接続しているときに表示されます。

3 **◄◄/►►I ボタンで *Bluetooth* 機器を選び、►II ボタンを押して決定する。**

4 **◄◄/►►I ボタンで項目を選び、►II ボタンを押して決定する。**

ヒント

- 表示される項目は、ペアリングした *Bluetooth* 機器によって異なります。
- 「Device List」には最大 8 件まで登録することができます。
- ペアリングした機器が 1 件もない場合は、「Device List」は表示されません。

Phone Connect（HFP または HSP 接続）

Bluetooth 対応携帯電話に接続し、通話するときに選びます（26 ページ）。登録されている機器と本機を HFP または HSP*[1] で接続します。どちらのプロファイルでも接続が可能な場合は、HFP が優先されます。登録機器が HFP、HSP のどちらにも対応していない場合や、本機が HFP または HSP で接続中の場合は表示されません。

Phone Disconnect（HFP または HSP 切断）

HFP または HSP 接続を切断します。選択した機器が HFP または HSP で接続中の場合のみ表示されます。

Music Connect（A2DP および AVRCP 接続）

Bluetooth 対応機器に接続して、音楽を聞くときに選びます（23 ページ）。登録されている機器と本機を A2DP および AVRCP*[1] で接続します。登録機器が A2DP に対応していない場合や、本機が A2DP で接続中の場合は表示されません。

Music Disconnect（A2DP および AVRCP 切断）

A2DP および AVRCP 接続を切断します。選択した機器が A2DP に接続中の場合のみ表示されます。

Delete（削除）

登録されている機器をリストから削除します。選択した機器が HFP/HSP または A2DP で接続中の場合は表示されません。

Unit Info（機器情報）

登録されている機器の情報を表示します。「Device Address」を選ぶと BD アドレス（*Bluetooth* 機器固有の番号）が表示されます。「Profile」*[2] を選ぶと、HFP、HSP、A2DP、AVRCP の 4 つのプロファイルのうち、本機と接続が可能なものが表示されます。

*[1] プロファイルについて詳しくは、10 ページをご覧ください。

*[2] 相手側の *Bluetooth* 機器によっては、本機と接続したプロファイルでないと「Profile」に表示されない場合があります。

ヒント

相手側の *Bluetooth* 機器によっては、Phone Connect、または Music Connect のどちらか一方を実行すると、両方のプロファイルが接続される場合があります。同様に、Phone Disconnect、または Music Disconnect のどちらか一方を実行すると、両方のプロファイルが切断される場合があります。

本機を廃棄する

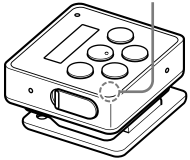
Li-ion

機器に内蔵されている充電式電池はリサイクルできます。この充電式電池の取り外しはお客様自身では行わず、ソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

使用上のご注意

Bluetooth 通信について

- *Bluetooth* 無線技術ではおよそ 10 m 程度までの距離で通信できますが、障害物（人体、金属、壁など）や電波状態によって通信有効範囲は変動します。
- 本機のアンテナは、下記の図の点線で示した部分に内蔵されています。接続する *Bluetooth* 機器と本機のアンテナとの間に障害物が入らないようにすることで、*Bluetooth* 通信の感度は向上します。
  接続する機器のアンテナ部と、本機内蔵アンテナ部分との間に障害物などがある場合、通信距離が短くなります。



- *Bluetooth* 通信は以下の状況において、通信感度に影響を及ぼすことがあります。
  – 本機と *Bluetooth* 機器の間に人体や金属、壁などの障害物がある場合
  – 無線 LAN が構築されている場所や、電子レンジを使用中の周辺、その他電磁波が発生している場所など
- *Bluetooth* 機器と無線 LAN（IEEE802.11b/g）は同一周波数帯（2.4 GHz）を使用するため、無線 LAN を搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。
  – 本機と *Bluetooth* 機器を接続するときは、無線 LAN から 10 m 以上離れたところで行う。
  – 10 m 以内で使用する場合は、無線 LAN の電源を切る。
  – 本機と *Bluetooth* 機器をできるだけ近付ける。
- *Bluetooth* 機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機および *Bluetooth* 機器の電源を切ってください。
  – 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
  – 自動ドアや火災報知機の近く
- 本機は、*Bluetooth* 無線技術を使用した通信時のセキュリティとして、*Bluetooth* 標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応していますが、設定内容などによってセキュリティが充分でない場合があります。
  Bluetooth 通信を行う際はご注意ください。
- *Bluetooth* 通信時に情報の漏洩が発生しましても、当社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機はすべての *Bluetooth* 機器との *Bluetooth* 接続を保証するものではありません。
  – 接続する *Bluetooth* 機器は、Bluetooth SIG の定める *Bluetooth* 標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。
  – 接続する機器が上記 *Bluetooth* 標準規格に適合していても、機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
  – ハンズフリー通話中、接続機器や通信環境により、雑音が入ることがあります。
- 接続する機器によっては、通信ができるようになるまで時間がかかることがあります。

次のページにつづく

その他のご注意

- 湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所、直射日光の当たる場所や停車中の車内などには置かないでください。故障の原因となります。
- 携帯電話でご使用の際、電波状況、場所の影響により、ご使用できない場合があります。
- 本機は、力を加えたり重さを加えたりしたまま長時間放置すると、変形してしまうおそれがあります。保管するときは、変形しないようにしてください。
- 落としたりぶつけたりなどの強いショックを与えないでください。
- 汚れは、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- 水がかからないようご注意ください。本機は防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  – 洗面所などでポケットに入れての使用身体をかがめたときなどに落として水濡れの原因となる場合があります。
  – 雨や雪、湿度の多い場所での使用
  – 汗をかく状況での使用
  濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに入れると水濡れの原因となる場合があります。
- ヘッドホンを本体からはずすときは、ヘッドホンのプラグを持ってはずしてください。コードを持って引っ張ると断線の原因となる場合があります。
- 他に疑問点や問題点がある場合は、もう一度この取扱説明書をよく読んでから、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、再度の点検と、ホームページのサポート情報を確認してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

共通

電源が入らない

➡ 本機を充電する。
➡ 充電中は電源を入れることができません。USB ケーブルを本機からはずし、電源を入れてください。

ペアリングできない

➡ 本機と *Bluetooth* 機器をなるべく近付けてからペアリングを行う。

Bluetooth 接続ができない

➡ 本機の電源が入っているか確認する。
➡ 相手側 *Bluetooth* 機器の電源が入っていて *Bluetooth* 機能が有効になっていることを確認する。
➡ 本機に相手側 *Bluetooth* 機器との接続履歴が残っていない。ペアリングが完了したらすぐに、相手側 *Bluetooth* 機器で *Bluetooth* 接続を行う。
➡ 本機または相手側 *Bluetooth* 機器がスリープ状態になっている。
➡ *Bluetooth* 接続が切断されている。もう一度 *Bluetooth* 接続を開始する。（音楽を聞く場合：23 ページ参照、通話する場合：26 ページ参照）

音がひずむ

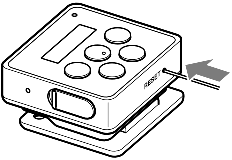
➡ 本機や *Bluetooth* 機器の周辺に 2.4 GHz 帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。

通信距離が短い（音声が途切れる）

➡ 無線 LAN や *Bluetooth* 機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使用する。
➡ 本機のアンテナを相手側 *Bluetooth* 機器の方向へ向け、障害物で遮らないようにする（41 ページ）。

本機を操作できない

➡ 本機をリセットする（この操作をしても、ペアリング情報は削除されません）。クリップなどの細い棒を穴へ差し込み、ボタンの感触があるまで押す。



充電するとき

充電できない

- ➡ USB ケーブルが本機およびパソコンとしっかり接続されているか確認する。
- ➡ パソコンの電源が入っているか確認する。
- ➡ パソコンがスタンバイ（スリープ）、休止状態に入っていないことを確認する。

充電時間が長い

- ➡ 本機とパソコンが USB ハブなどを経由せずに直接つながっているか確認する。

本機がパソコンに認識されない

- ➡ USB ケーブルがきちんとパソコンの USB ポートに接続されていない。USB ケーブルを一度はずしてから、接続しなおす。
- ➡ 本機とパソコンが USB ハブなどを経由せずに直接つながっているか確認する。
- ➡ 接続しているパソコンの USB ポートに問題がある可能性がある。パソコンに別の USB ポートがあれば、そのポートに接続しなおす。
- ➡ 上記に当てはまらない場合は、USB 接続をしなおす。

音楽を聞くとき

音が出ない

- ➡ 本機と送信側 *Bluetooth* 機器の電源が入っているか確認する。
- ➡ 本機と送信側 *Bluetooth* 機器が、A2DP で *Bluetooth* 接続されていない。A2DP で *Bluetooth* 接続をする（23 ページ）。
- ➡ 送信側 *Bluetooth* 機器で、音楽が再生されているか確認する。
- ➡ 本機の音量が小さすぎないか確認する。
- ➡ 接続した機器側で音量を調節する必要がある場合は、接続した機器で音量を上げる。
- ➡ 本機と送信側 *Bluetooth* 機器を再度ペアリングする（19 ページ）。

音が小さい

- ➡ 本機の音量を上げる。
- ➡ 接続した機器側で音量を調節する必要がある場合は、接続した機器で音量を上げる。

音質が悪い

- ➡ 本機と送信側 *Bluetooth* 機器が、HSP での *Bluetooth* 接続になっているときは、送信側 *Bluetooth* 機器を操作して、A2DP での *Bluetooth* 接続に切り換える。

音楽再生中に音が途切れやすい

- ➡ *Bluetooth* 機器から送信している音楽のビットレート設定と、ご使用環境との組み合わせによって、本機の受信状態が不安定になっている場合があります。
  （Settings）の「Sound Quality（音質モード）」を「Standard」にする（35 ページ）。*
  - * ご使用の環境によっては、上記の操作で音の途切れが改善されない場合もあります。設定をもとに戻すには、（Settings）の「Sound Quality（音質モード）」を「High Quality」にします。
- ➡ （Settings）の「Video Mode（ビデオモード）」を「On」にしていると、ご使用環境によっては音が途切れやすくなる場合があります。「Video Mode」を「Off」にする（35 ページ）。

通話するとき

通話相手の声が聞こえない

- ➡ 本機と *Bluetooth* 対応携帯電話の電源が入っているか確認する。
- ➡ 本機と *Bluetooth* 対応携帯電話が *Bluetooth* 接続されていない。
  HFP、もしくは HSP で *Bluetooth* 接続をする（26 ページ）。
- ➡ *Bluetooth* 対応携帯電話の音声設定が、通話中に本機を使うようになっているか確認する。
- ➡ 本機の音量が小さすぎないか確認する。
- ➡ *Bluetooth* 対応携帯電話で音量を調節する必要がある場合は、音量を上げる。
- ➡ 本機で音楽を聞いているときは再生を停止して、本機の ボタンを押して着信に応答する。

通話相手からの声が小さい

- ➡ 本機の音量を上げる。
- ➡ *Bluetooth* 対応携帯電話で音量を調節する必要がある場合は、音量を上げる。

FM ラジオを聞くとき

FM ラジオ放送がよく聞こえない

- ➡ 放送がもっともよく聞こえる周波数をマニュアルで選局する（32 ページ）。

雑音が多く、音が悪い

- ➡ 建物や乗り物内では電波が弱い場合があります。窓際に近づくなどして電波の入りやすい場所を選ぶ。
- ➡ ヘッドホンのコードがアンテナとして働きます。できるだけ長く伸ばして使用する。

雑音が入る

- ➡ 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している場合、携帯電話などを本機から離して使用する。

メッセージ一覧

本体表示部にメッセージが出たら、下の表示に従ってチェックして下さい。

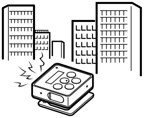
表示	状態	処置
No Data	着信履歴の記録がない。	携帯電話とHFPで*Bluetooth*接続し、着信時に発信者番号が通知された場合に着信履歴が記録されます。
Preset Full	プリセットに31局以上登録しようとした。	プリセットは最大30局まで登録できます。不要な放送局を削除してから、再度登録してください。
Connection Failed	プロファイルの接続に失敗した。	「故障かな？と思ったら」の「*Bluetooth*接続ができない」をご覧ください。
Not Available	操作した機能は現在使用できない。	操作した機能のページをご覧ください。
No Connection	操作した機能に必要なプロファイルが接続されていない。	操作した機能に必要なプロファイルの接続を行ってください。 詳しくは、操作した機能のページをご覧ください。
Link Loss	*Bluetooth*の通信が不安定となり、接続が切断された。	再度、*Bluetooth*接続を行ってください。
Pairing Failed	ペアリングに失敗した。	本機と*Bluetooth*機器をなるべく近付けてからペアリングを行う。

ラジオをもっとクリアに聞くには

室内や電車の中などでは電波が弱く、ラジオがはっきり聞こえないことがあります。ここでは、ラジオを今までよりクリアに聞くためのポイントをご紹介します。

Point1 ラジオはアンテナが 命

空間を飛び交う電波をとらえるのがアンテナです。アンテナには指向性（受信感度の良い方向と悪い方向）があるので、ラジオがもっともよく受信できる方向に動かす必要があります。



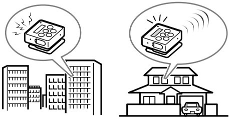
ヘッドホンのコードを一番よく聞こえる方向に動かす

ヘッドホンのコードが FM 用のアンテナとして働きます。ヘッドホンのコードはアンテナとしてできるだけ長く伸ばし、一番よく聞こえる方向に動かしてください。



Point2 聞く場所が大切

家が鉄筋造りだと木造よりも電波が届きにくいことをご存知ですか？さらに、高台にある家と低い場所にある家でも違いがあります。電車 も同じです。場所によっては電波の届きかたが全然違います。



できるだけ窓のそばで

電波は外から入ってきます。できるだけ窓のそばで聞きましょう。窓の向きによっても違いがあるので、一番よく聞こえる窓を探してみてください。

室内でラジオをお聞きになる場合

家電製品が近くにあると雑音が入り受信感度が悪くなる場合があります。なるべく離して聞いてみてください。

携帯電話から離してみる

携帯電話の近くでラジオを聴くと雑音が入ることがあります。携帯電話は通話中だけでなく、待ち受け中も電波を出しています。雑音が入る場合は、携帯電話の電源を切るか、本機から離してみてください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではワイヤレスオーディオレシーバーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

主な仕様

概要

Bluetooth

通信方式
Bluetooth 標準規格 Ver. 2.1+EDR*[1]

出力
Bluetooth 標準規格 Power Class 2

最大通信距離
見通し距離約 10 m*[2]

使用周波数帯域
2.4 GHz 帯（2.4000 GHz ～ 2.4835 GHz）

変調方式
FHSS

対応 *Bluetooth* プロファイル *[3]
A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）、AVRCP（Audio Video Remote Control Profile）、HFP（Hands-free Profile）、HSP（Headset Profile）

対応コーデック *[4]
SBC*[5]

対応コンテンツ保護
SCMS-T 方式

伝送帯域（A2DP）
20 Hz ～ 20,000 Hz（44.1 kHz サンプリング時）

*[1] Enhanced Data Rate の略
*[2] 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。
*[3] *Bluetooth* プロファイルとは、*Bluetooth* 機器の特性ごとに機能を標準化したものです。
*[4] 音声圧縮変換方式のこと
*[5] Subband Codec の略

FM チューナー

FM ラジオ受信周波数
76.0 MHz ～ 90.0 MHz

アンテナ
ヘッドホンコードアンテナ

付属品

USB ケーブル（1）
取扱説明書（本書）（1）
その他印刷物一式

推奨アクセサリー

ヘッドホン：
MDR-EX500SL（別売）
USB 充電 AC 電源アダプター：
AC-U501AD（別売）

ワイヤレスオーディオレシーバー

電源
DC 3.7 V：内蔵リチウムイオン充電式電池

最大外形寸法（クリップ部含む）
約 41 mm × 41 mm × 21 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量
約 30 g

ヘッドホン出力

出力端子
Φ 3.5 mm ステレオミニジャック

最大出力
18 mW ＋ 18 mW（16 Ω）

マイク部

型式
エレクトレットコンデンサー型

指向特性
全指向性

有効周波数帯域
100 Hz 〜 4,000 Hz

許容動作温度
0 ℃〜 45 ℃

表示部
有機 EL（単色）

USB 充電のパソコン推奨環境

以下の OS が標準インストールされており、USB ポートが標準装備されたパソコン

- 下記環境を満たす全てのパソコンで動作を保証するものではありません。
- 日本語版標準インストールのみ。
- 自作パソコンは動作保証対象外です。

— Windows® をお使いの場合

Windows® 7	Home Premium/ Professional / Ultimate
Windows Vista®	Home Basic /Home Premium / Business / Ultimate
Windows® XP	Home Edition（SP2 以降）/ Professional（SP2 以降）/ Media Center Edition 2004（SP2 以降）/ Media Center Edition 2005（SP2 以降）

— Macintosh をお使いの場合
Mac OS X（バージョン 10.3 以降）

Windows および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

Macintosh、Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ソニーの相談窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

ホームページで調べるには

➡ AV 関連商品・アクセサリー カスタマーサポートへ
（http://www.sony.co.jp/av-acc）
Bluetooth アクセサリー商品に関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内しています。

電話・FAX でのお問い合わせは

➡ ソニーの相談窓口へ（下記電話・FAX 番号）
- お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

セット本体に関するご質問時：
－ 型名：DRC-BT60
－ 製造（シリアル）番号：本体裏側のラベルに記載
－ ご相談内容：できるだけ詳しく
－ お買い上げ年月日

接続に関するご質問時

質問の内容によっては、本機に接続される機器についてご質問させていただく場合があります。事前にわかる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。　**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話･PHS･一部のIP電話‥ 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話･PHS･一部のIP電話‥ 0466-31-2531
※取扱説明書･リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

➡ 左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「309」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1